



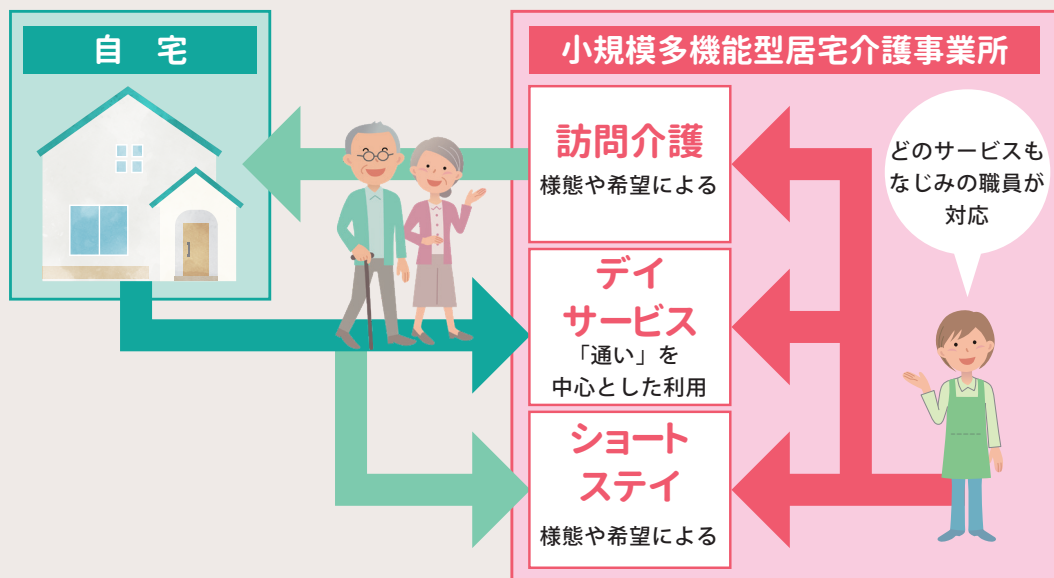
名古屋市立西陵高等学校

名古屋市立西陵高等学校

西陵高等学校は名古屋市内で唯一、介護福祉に特化した「ふくし系列」の学科をもつ学校で、将来介護士、看護師など福祉の現場で働くことを目指す生徒達が勉学に励んでいます。

「小規模多機能型居宅介護」って？

「小規模多機能型居宅介護」とは、中重度の要介護者となっても、在宅での生活が継続できるように支援する、小規模な居住系サービスの施設です。デイサービスなどの「通い」を中心に訪問介護やショートステイを組み合わせ、生活の支援や機能訓練を行い、中重度となっても在宅での生活が継続できるように支援するサービスです。



一つの事業者と契約するだけで利用者の希望や状況に応じて多様なサービスを組み合わせるため「サービス毎に違う施設を利用しているので利用料がかさむ」「担当職員が何度も変わるので不安」といったことがなく、また小規模かつ地域密着型の施設なので利用者同士もなじみの顔が多くなりやすく、安心して利用することができます。また、場合によっては介護度が大きくなった際にも併設するグループホームや特養などがそのまま利用できるというメリットがあります。

福しんぶん

福祉のお仕事新聞

名古屋版

2023年10月

発行：特定非営利活動法人
未来人財開発プロジェクト
TEL:052-325-2220

制作：株式会社 大井企画

未来人財開発
プロジェクト

特定非営利活動法人(NPO法人)
未来人財開発プロジェクトとは？
青少年・就職・転職及び復職希望者に対して、人材育成に関する事業を行い、雇用に係る問題の改善を図り、エンプロイアビリティ(雇用される能力)の向上と社会資産の増進に寄与することを目的とする法人です。



西 区

社会福祉法人青山里会

びわじま介護センター

小規模ならではの「地域密着」

今回は西陵高校ふくし科の生徒達と名古屋市区の「びわじま介護センター」取材させていただきました。

びわじま介護センターは、地域密着型介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）・短期入所生活介護（ショートステイ）・サービス付き高齢者向け住宅・小規模多機能型居宅介護の4つのサービス事業を展開しており、利用者様の状況に合わせて幅広く利用できる施設となっています。



居室

このお部屋ではベッドの代わりに布団が！
「自宅にいた時と同じように
布団で寝たい」という
入居者様の希望に合わせて
とのことだそうです。



見守り支援システム aams

入居者様の睡眠状態が
iPadにデータとして
送信・可視化されるので
「この方はいつ起きるか」
「今ベッドにいるか」等が
しっかり管理されています。



法人や施設の解説をしていただいた後は、スタッフの案内で施設内の見学をさせていただきました。
入居者様に合わせた個性豊かな個室や、ICTを導入した支援システムなど、入居者様・スタッフともに安心して過ごせる環境が整えられていました。
丁度夕食時だったこともあり、実際に生活している入居者様と鉢合わせすることもありましたが、突然の訪問であつたにも関わらずほとんどのの方が手を振って温かく迎えてくださり、帰り際には「またおいで」と言ってくださったりと、入居者様の様子からとても温かな環境であることが伝わってきました。



「大きすぎない施設」 だからこそその「大きなメリット」

2年 長屋 朋美

大きな施設ではないですが、その中でも様々なサービスを行っていたり、施設が大きすぎないからこそ職員さんの目が届きやすいというメリットもあり大切なことだなと思いました。

見守り支援システムを実際に見せていただいて、利用者さんの睡眠状態や心拍などがタブレット1台で確認でき、利用者さんの安否が簡単に確認出来ることから職員さんの負担を減らすことにも繋がっていると思いました。このように利用者さんにとって職員さんにとってもメリットの大きいシステムや介護ロボットなどはこれから導入していくべきだと思いました。

気持ちに寄り添う施設サービスで 新しい視点に気づけました

2年 古賀 美空

特養の部屋を見せていただいて、別のユニットでも交流ができるように渡り廊下を開放したり、利用者の方同士がコミュニケーションをとっていたりして明るい雰囲気だったのが印象的でした。職員の方も楽しそうだったのでいいなと思いました。

また、サービス付き高齢者向け住宅も見せていただき、そのようなサービスがあることを初めて知りました。できるだけ一人暮らしをして自分の力で暮らしたいけど不安があるという高齢者の方が多いと思っていたので、もっと広まればいいなと思いました。

費用のことも教えていただき、思っていた以上にお金が必要だということを知りました。国が在宅での支援を推し進めているというお話を聞いて、人それぞれに合うサービスを公平に受けられるようになるいいなと思いました。

これまでさまざまな施設での支援内容を学んできましたが、今回の見学を通して新しい視点を持つことができました。

多彩なサービスが交じり合って さまざまな人を支えていました

2年 土手 柚花

びわくま介護センターでは、同一建物内に4つのサービスがあり、その特色を活かした介護が行われていました。サービス付き高齢者向け住宅に住んでいる方が小規模多機能型居宅介護のサービスの利用をしたり、ショートステイを利用していた人が特別養護老人ホームに入所された時に同フロア内に2つの施設があつて行き来ができるので、顔なじみの人がいるなど、この施設ならではの特徴を教えてくださいました。

また、ICTを活用した見守り支援では、眠りの浅さなどが分かることにより、看取りの方の家族に対しても根拠がある対応ができるのだと思いました。巡回が出来ない人に対しても、この見守りシステムがあれば寝ているのか、離床されているのか分かるので、さまざまな人に合わせることが出来るのだと感じました。

見学の短い時間の中からも 「安心感」を感じられました

2年 松岡 優羽

今回、見学に行かせてもらって一番感じたのが安心感でした。

初めて行った施設だったのにソワソワしませんでした。それは職員の方の雰囲気や、建物が適度な大きさだからだと思いました。職員の方も仰っていました、あの大きさだからこそリロケーションダメージが少なかったり、目が届く距離にいたため、安全がとれることだったり、びわくま介護センターだからこそこのいい所を沢山感じられました。

また、サービス面でも他の施設と比べても選択肢が多く、そういった点でも利用される方に安心感を与えているように思えます。

お話を聞いて、見学の時に感じた安心感に納得出来ました。生活する上で安心感はとても大切な要素になると思うので、利用される方にとっても、ご家族の皆様にとっても良い点だと思いました。

屋上菜園

屋上では色とりどりの
野菜や果物を自家栽培。

…していたのですが、
丁度収穫を終えてしまった
時期のようでした。残念！



共同スペース

入居者様のお食事にお邪魔します。
突然の訪問にも関わらず
たくさんの方が笑顔で
出迎えて下さりました。

※プライバシー保護の為、ぼかしを入れています



入居者さん達の明るい笑顔は 一人ひとりに寄り添った介護の賜物

2年 安藤 大輝

小規模多機能型居宅介護は自分が思っていたよりも他の介護老人保健施設、特別養護老人ホームと似ていました。しかし、特養に比べて小規模多機能型の方が明るい方が多くいるように感じました。

一人ひとり部屋の作りは一緒であっても、ベッドではなく布団であったり、手すりがついている場所が違っていたりと改めて入居されている人によって介護の仕方が違うんだなと気づきました。また、サービス付き高齢者向け住宅は特別養護老人ホームと違い、介護保険が適用されないため生活費が高いことを学びました。



今回の取材にお伺いした法人様のご紹介



社会福祉法人 せいざんりかい 青山里会
<https://seizanrikai.jp/>



三重県四日市市を中心に老人福祉施設を運営している法人です。
 「人々が住みなれた場所、暮らし続けたい場所で、豊かに、安心して暮らせる街づくり」を目指し、介護保険制度内のサービスに限らない独自のサービス開発など多岐にわたる活動を行っています。



地域密着型介護老人福祉施設

びわじま介護センター

名古屋市西区枇杷島 2-19-18

(名鉄「東枇杷島」駅より徒歩5分)

- ・ 地域密着型介護老人福祉施設 (29名)
(特別養護老人ホーム)
- ・ ショートステイ (9名)
- ・ 小規模多機能型居宅介護 (25名)
- ・ サービス付き高齢者向け住宅 (9名)

今回取材させていただいた施設。

2014年7月に開設され、小規模ならではの利点を活かした地域密着型の施設として、多様なサービスを提供しています。誰もが住み慣れた地域の中で安心して暮らせるよう地域の方とも連携しながら運営されています。

